

< 2019年度 活動報告 ・ 2020年度 活動計画 >

経済部会

各委員会での取り組み内容を中心として

部会長 鍵谷 昭典

2020年6月5日

目次

1. 部会・委員会の概要

1.1. 幹部紹介

1.2. 委員会紹介

1.3. 関連団体等

1.4. ベースとなる考え方

1.5. 広報活動

2. 2019年度 活動報告

2.1. 診療報酬委員会

2.2. 放射線治療委員会

2.3. 税負担控除検討委員会

2.4. 費用対効果分析委員会

3. 2020年度 活動計画

1. 部会・委員会の概要（幹部紹介）

部会長 **鍵谷 昭典**（株式会社根本杏林堂）

副部会長 **佐藤 比呂志**
 （キヤノンメディカルシステムズ株式会社）

副部会長 **磯部 徹**（エレクトラ株式会社）

副部会長 **須賀 秀徳**（PHC株式会社）

1. 部会・委員会の概要（委員会紹介）

・診療報酬委員会

（診療報酬に関する中心的な委員会）

委員長 鍵谷 昭典（株式会社根本杏林堂）

副委員長 赤木 信裕（株式会社キヤノンメディカルシステムズ）

*感染防止対策WG 主査 赤木 信裕（同上）

・放射線治療委員会

（JASTROとの強固な連携）

委員長 磯部 徹（エレクタ株式会社）

副委員長 長押 松美（株式会社バリアンメディカルシステムズ）

*粒子線治療WG 主査 淵上 繁記（株式会社日立製作所）

・税負担控除検討委員会

（特別償却税制／中小企業税制／省エネ補助金等への対応）

委員長 佐藤 比呂志（キヤノンメディカルシステムズ株式会社）

副委員長 高丸 和也（株式会社日立製作所）

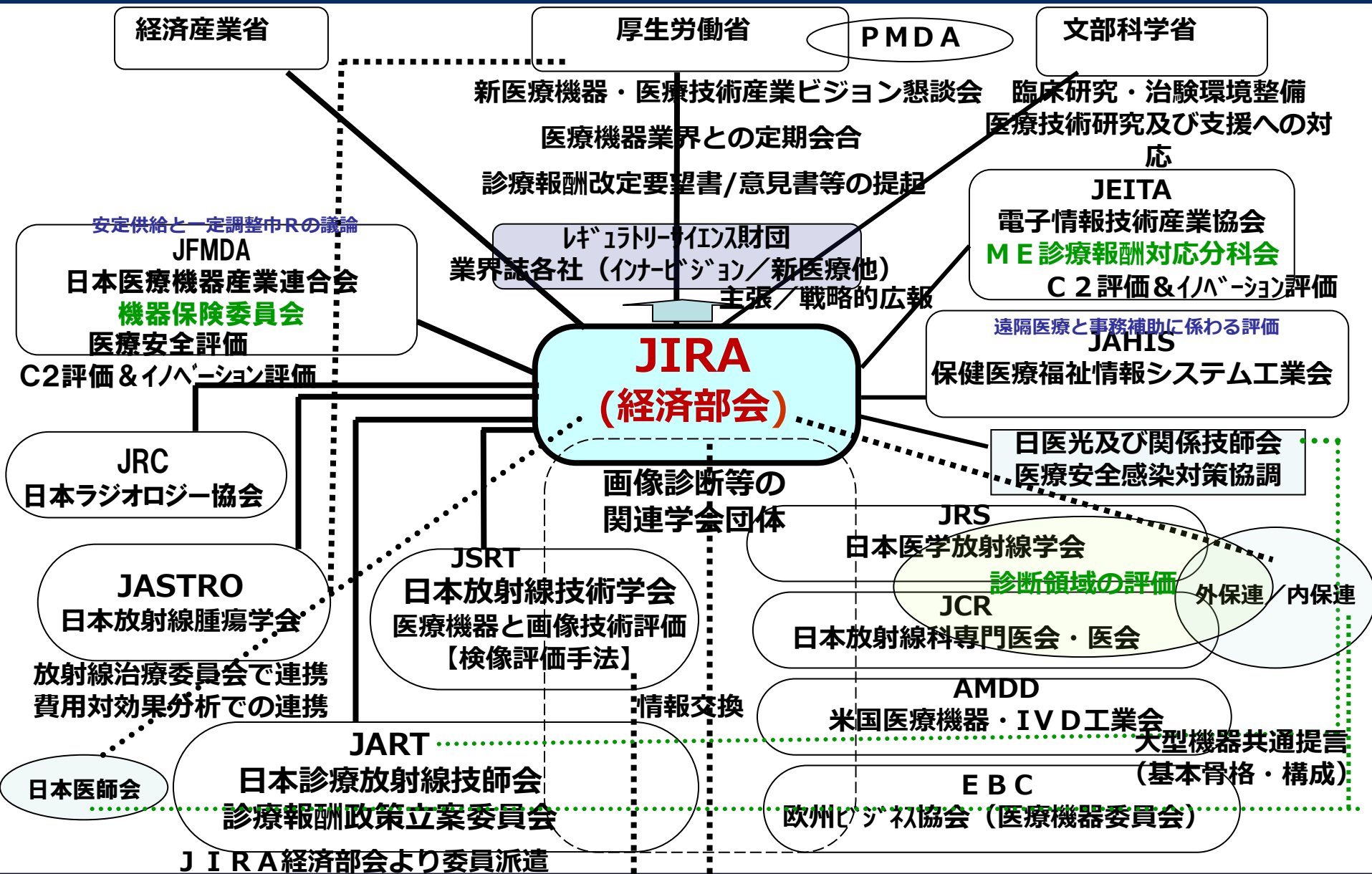
・費用対効果分析委員会

（費用対効果評価分析を主軸にロジックを構築・今後は重要な役割）

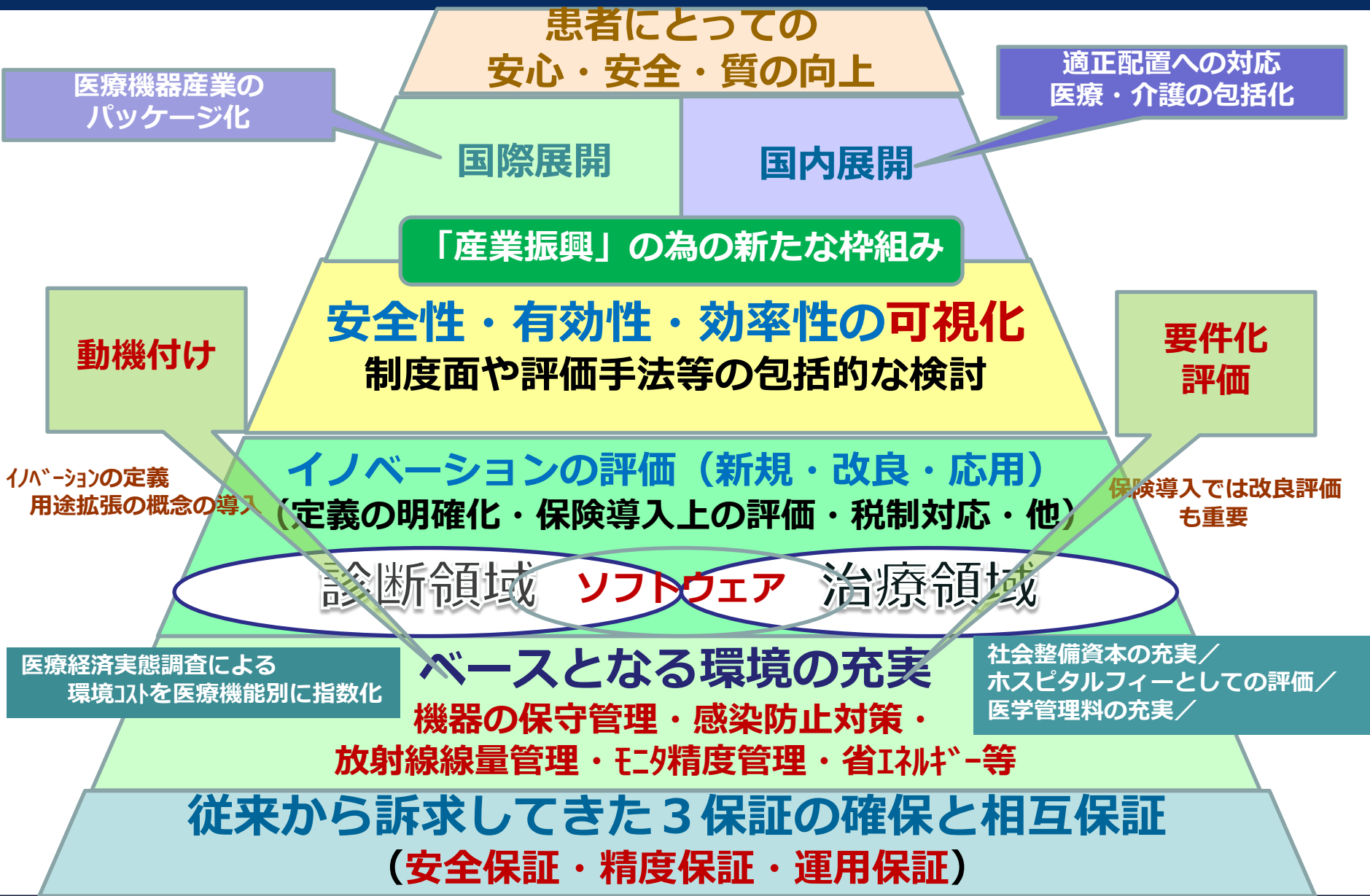
委員長 須賀 秀徳（PHC株式会社）

副委員長 松岡 達博（株式会社島津製作所）

1. 部会・委員会の概要（関連団体等）



1. 部会・委員会の概要（ベースとなる考え方）



1. 部会・委員会の概要（広報活動）

- ・日本診療放射線技師会（JART）会誌寄稿及び別冊化
2016年 Vol.63 No.761 「診療報酬改定における技術の可視化と評価に向けて」
2016年7月号、8月号、11月号でシリーズ化「平成28年度診療報酬改定解説」
2018年7月号、8月号でシリーズ化「2018年度診療報酬改定解説」
2018年12月号、2019年1月号連載診療報酬シンポジウム「精度・安全を高め、より良い評価へ向けて」
2020年1月号、2月号、3月号合本「2020年度診療報酬改定に向けたアンケート結果の解説」

- ・医薬品医療機器レギュラトリー・サイエンス財団会誌

- Vol.46 No.11 診療報酬上での評価手法におけるイノベーション評価の大きな隔たりと齟齬
- Vol.46 No.12 厚生労働省との意見交換を通じた重要テーマとその実現に向けて
- Vol.47 No. 3 医療法の安全確保－医療機器の保守点検と感染防止対策
- Vol.47 No. 4 高額医療機器の購入に際して考えるべき税制上の側面と医療機器の進歩
- Vol.47 No. 8 経済的視点のみを優先した医療機器の安全管理に対する問題点
- Vol.48 No. 1 放射線部門における感染管理（感染防止対策）の重要性と課題
- Vol.48 No. 6 医療機器の管理の重要性とその取組み事例紹介
- Vol.48 No. 7 経営視点からみた医療機器
- Vol.48 No.10 医療安全情報の連携の重要性とその取組み

※上記内容の合本版（寄稿集）も発刊

- Vol.49 No. 8 診療報酬改定から見える医療安全・感染防止への新たな対応に向けて
- Vol.50 No.11 医療機器の保守管理の重要性とその課題
- Vol.51 No.11 医師の時間外労働規制に向けた新たな税制のスタート

- ・日本放射線技術学会（JSRT）雑誌

- 第71巻 第12号 厚生労働省との意見交換を通じた重要テーマ
- 第72巻 第 1号 医療法の安全確保-医療機器の保守点検と医療機器の感染防止対策-
- 第75巻 第 3号 費用対効果評価 医療機技術のイノベーション評価と国民皆保険制度の持続性の両立
- 第76巻 第 1号 医療機器の共同利用等の施策とその課題

- ・MEジャーナル座談会特別編集

大型医療機器のあるべき診療報酬の姿

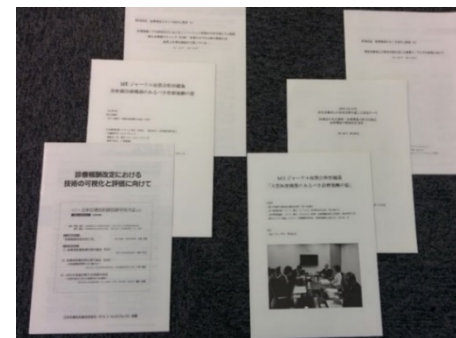
放射線治療機器のあるべき診療報酬の姿、及び特別編集の合本版

「医療被ばく低減・それぞれの立場から」～医療放射線の適正管理に関する検討会設置を受けて～

「患者視点を踏まえた医療安全の徹底に向けて」～医療現場での実効性を高めるために～

「医師の働き方改革とチーム医療の推進に関する座談会」～AI、IoTなどの新たな医療技術の果たす役割～

**「戦略的広報活動」
と位置付けている！**



診療報酬委員会

(1) 日本診療放射線技師会 (JART) 診療報酬政策立案委員会との連携

- ・ **JART診療報酬政策立案委員会へは3名の委員を派遣**
- ・ JARTにおける厚生労働省への**要望書の取り纏め**や、**アンケート調査**の実施、**結果の集計**、**シンポジウム**の開催、**会誌への投稿**等の支援を実施
- ・ アンケート調査では診療報酬改定後の検証アンケートと評価要望書を作成するためのベースとなる調査アンケートの実施
- ・ JART学術大会においてシンポジウムに参加し、工業会としての発表等を実施
- ・ 画像精度を高めていくための「**画像精度運用管理料**」の新設を提案
- ・ 診療報酬における**施設基準・算定要件**への**診療放射線技師の職種**を掲載する等の提案に協力
- ・ 2020年度**診療報酬改定**における**速報版**等を作成し、JART関連や会員企業等に配布
- ・ 地域の**放射線技師会**における**講演**や**活動**の支援等を実施

2. 2019年度 活動報告

診療報酬委員会

(2) 日本医療機器連合会（医機連） 機器保険委員会との連携

- ・ 厚労省との**定期会合**や中央社会保険医療協議会（**中医協**）での**業界意見陳述**等へ対応・2019年度の大きなミッションとして、財務省から「**CT・MRI等の設置台数等が多い**」との指摘があった件について、**AMDD**（（米国医療機器・IVD工業会））・**EBC**（欧州ビジネス協議会）とも**連携**し、中医協での業界意見陳述等を通じて、業界の立場を主張
- ・ 結果として、診療報酬改定においての厳しい対応には至らなかった
- ・ 医療機器の**共同利用の定義**について、「**機器の提供のみ**」だったものが、JIRAからの提言に合わせて、**外来医療に関するガイドライン**では、「**紹介患者を含む**」という表現に**変更**となった
- ・ 他にもJIRAが主導して、保守点検実施率の向上、診療用放射線の適正管理、感染防止対策の推進、モニタの精度管理等を、医機連・AMDD・EBCの三極から提言（※後編にある参考資料を参照）
- ・ 今後も各都道府県での**地域医療構想**において、医療機器の共同利用の施策が推進される中、JIRAとしての主張を継続中（※後編にある参考資料を参照）

診療報酬委員会

(3) 医療機器の保守管理に関する提言

- ・ 前述の「**外来医療に係る医療提供体制の確保ガイドライン**」で、共同利用を引き受ける医療機関での放射線診療機器の医療被ばくを含む「**医療機器の管理状況**」等も合わせて「**可視化**」することとなった
- ・ 定期会合や中医協での業界意見陳述の場で、医療機器の保守管理の重要性を訴求
- ・ しかし診療報酬の施設基準等で保守点検実施を必要とする機器（CT・MRI・造影剤注入装置等）以外の機器では**保守点検実施率が低い状況**
- ・ 主要機器の**平均使用年数が12年を超え**、医療機関における費用負担も重く、何らかの動機付けが必要
- ・ **保守維持管理コストが診療報酬上の「撮影料」に含まれる旨の記載を**通則に追加もしくは通知発出することを訴求継続中
- ・ 共同利用等における**中核となる医療機関での保守管理実施率を100%**に近づけること、更には管理の必要性が高い医療機器の「**医療機器安全管理料**」への追加等を要望

診療報酬委員会

(4) 診療用放射線の適正管理に関する提言

- ・ 2018年度診療報酬改定で画像診断管理加算3や頭部MRI撮影加算の評価
- ・ 2020年4月には医療法施行規則改正で、CT・IVR・RI・PET等の特定10品目（被ばく管理・記録対象機器）の線量管理が必須化
- ・ 厚労省との定期会合においてJIRAとして、上記対象機器の放射線管理を実施した場合の診療報酬上の評価として「**医療機器安全管理料3**」の新設や、「**画像診断管理加算2及び3**」の「**施設基準**」に順次**上記対象機器を追加する等の提案を実施**
- ・ 今後はこれらの提案を継続的に行っていく

診療報酬委員会

(5) モニタの精度管理に関する提言

- ・ モニタの精度管理を実施する**JARTとの共同アンケート調査へ協力し、そのアンケート結果から必要性が裏付けられた**
- ・ 2008年度の診療報酬改定で電子画像管理加算が導入されたことで、急速にモニタ診断が普及した一方で、モニタの管理の重要性が十分に認識されず、必要なリソースが確保されていない施設も多い
- ・ そのため、液晶モニタの経時変化で表示品質が保てないため、表示特性の違いで同じ病変が異なって見える等の問題が顕在化
- ・ 施設においてはモニタの精度管理・品質管理に必要なリソースを確保するための有効な施策が必要
- ・ **モニタ診断システム委員会と連携し、厚労省との定期会合等では「胸部単純撮影や乳房撮影実施時にJIRAの規格等に従い診療放射線技師等の責任者を任命し、モニタの試験履歴等を残すことが望ましい」等の記載を診療報酬上の施設基準等に記載する必要性を提案**

診療報酬委員会・感染防止対策WG 活動概要の紹介

- ・ 2008年度診療報酬改定にて医療安全に関する評価が開始され、2020年度改定においても感染防止対策に関する評価等が行われた
- ・ **医療機器関連企業**においては、抗菌効果のある機器表面の開発（撮影用機器・X線防護衣等、抗菌・除菌仕様製品等積極的な**感染防止関連機器等の開発を推進**
- ・ 学会や職能団体が自主的な取り組みとして指針やガイドラインを公開し、感染防止対策の啓発を実施
- ・ 放射線分野では、**JART**から「**診療放射線分野における感染症対策**」**ガイドライン**が2019年3月に公開
- ・ 感染防止対策WGではJIRA会員企業向けの勉強会の実施や具体的な**情報提供等を実施中**
- ・ 今後は**新型コロナウイルス（COVID-19）の発生**等もあり、JARTの安全管理委員会と連携したガイドライン等に沿った放射線部門における感染防止の取り組みに向けた環境整備を予定

放射線治療委員会 活動概要の紹介

- ・ **日本放射線腫瘍学会（JASTRO）**との強固な連携を通じて、2020年度診療報酬改定における**医療技術評価提案書の作成**に関して**協力**
- ・ 今後も継続して、2022年度診療報酬改定における「医療技術評価提案」でのJIRAの主張を反映した共同提案を行う予定
- ・ **放射線治療コード**や粒子線治療装置での協力等についても積極的に実施
- ・ 2019年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業「**医療機器の保守点検指針の作成等に関する研究**【放射線関連機器等WG】」に参加し、リモートアフターローディング装置およびガンマナイフ装置の保守点検内容及び研修の実施内容について協議に参加

税負担控除検討委員会 活動概要の紹介

- ・ **税制面での買い替え促進策**として「地域における医療提供体制の確保に資する設備の**特別償却制度**」や「生産性向上特別措置法に係る**固定資産税特例**」への取組みを継続中
- ・ **特別償却制度**においては「**日本医師会**」と連携し、配布用の**パンフレット**を作成し配布
- ・ 買い替え需要等に繋がるよう会員企業の協力が必要
- ・ 特に特別償却制度においては「**医師及びその他の医療従事者の労働時間短縮に資する機器等の特別償却制度**」として、2024年の労働基準法改正までは継続されるよう引き続きフォロー予定
- ・ **省エネルギー**においては、環境省へ**医療機器を対象品目とすべく活動を**実施
- ・ MRIの待機電力の省エネ化等、会員企業の努力に報いるため今後も引き続き説得材料等を用意して提案を継続予定
- ・ 上記以外でも買い替え促進につながる制度や補助金等の各種施策を精査し、少しでも会員企業の期待に応えられよう活動を継続予定

費用対効果分析委員会 活動概要の紹介

- ・ 中医協・費用対効果評価専門部会においては、医薬品・医療材料を中心とした議論が展開され、本格的な導入の流れとなった
- ・ **繰り返し使用する医療機器への費用対効果評価**については、今後の展開に合わせた状況次第であり、JIRAとしても将来的な準備として現状の評価方法の問題点や医薬品・医療材料との違いについて検討
- ・ **2020年度診療報酬改定の答申**において、「**医療技術の高度化や専門化に対応して、費用対効果の観点を踏まえつつ、イノベーションの評価等がより適切となるよう引き続き検討する**」と表記
- ・ 今後特定保険医療材料のみならず医療技術（に包括して評価される医療機器）に関する費用対効果評価の考え方も示されることが想定されるため、**継続的に中医協の動向等を注視**予定
- ・ 業界からの**提言に関するバックデータを整える**ため、諸外国の状況等も情報収集する必要がある

3. 2020年度 活動計画

- ・ 経済部会では、紹介した**各テーマの活動内容**をこれからも**継続して訴求**し、評価へと結び付けていく。
- ・ さらに3年後、5年後の**中長期的な視野**で医療機器の評価へ繋がる活動を実施する必要がある。
- ・ 例えば今後の医療分野における**ビッグデータ**や**人工知能（AI）**への評価の在り方の訴求、**プログラム医療機器**の拡充への対応等、診療報酬上の評価のみならず、**税制や補助金等**への対応、**働き方改革**をベースとした遠隔診断、オンライン診療等の**効率化・省力化**へ寄与する設備・機器等の評価の在り方の訴求等が考えられる。
- ・ 取り組むテーマは今後さらに増えていく可能性があり、**人材の確保・育成**等、将来の目標に向かって現時点から取り組みを開始していく必要がある。
- ・ また、委員会活動への実務を伴う参画者の募集や、**次代のリーダー育成**のための方策は今後の部会活動の中でも重要な位置づけとなってくる。特に人材の育成や募集に関しては事務局の協力無しには厳しいものがあるため、引き続き支援を要請したい。

この様な観点から今後も良きパートナーとともに、**関連産業の健全な発展と拡張**、国民の健康維持増進を目的とした**医療技術・医療機器等に関する経済的視点**での各種取り組み等を行っていく所存である。

**J I R A 経済部会では今後も
患者さんの安全・安心と
医療業界全体の発展のために
提言を継続していく所存です！
経済部会への温かいご支援と
是非、活動へのご参加を
宜しくお願い致します！**

JIRA

一般社団法人日本画像医療システム工業会
Japan Medical Imaging and Radiological Systems Industries Association